第２回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事録

■日時
　令和５年９月１４日（木）　９時３０分から１２時００分まで
■場所
　草津市立市民総合交流センター（キラリエ草津）　４０２会議室
■出席委員
　乾委員長、土山副委員長、森田委員、四方委員、出呂町委員、布施委員、佐藤委員
■欠席委員
　中谷委員、斎藤委員、喜田委員
■事務局
　西山課長、坂居課長補佐、吉川課長補佐、藤原係長、中西職員、山元主査
■中間支援組織
【（公財）草津市コミュニティ事業案】
　栗田主事
【（社福）草津市社会福祉協議会】
　秋吉課長、青木副参事
■協働コーディネーター
　阿部氏、仲野氏
■傍聴者
　なし

【導入（委員長）】

　今日は、草津市ってどんな部署があってどんな活動しているのかっていう話を、一度図上に落としてみて、どうなっているんだという話をしてみようと思います。自分と関わる草津市とか、自分と関わる他の人たちとかとの関係を見ていき、みんなで草津市の参加と協働の相関図を作っていこうという話です。

　草津市では、協働のまちづくり・市民参加を推進するために市役所の中のいろいろな部署が協働のまちづくりというのをテーマにしています。また草津市の特徴として、中間支援組織のコミュニティ事業団とか社会福祉協議会があります。色んな制度もあります。

　市民の方だって様々なテーマの市民グループがたくさんあり、地域組織を担ってもらっているまちづくり協議会もあります。

　ただそれぞれがバラバラでどう関連しているのかわからないし、どんなことをやっているのか知らなかったりする。或いはやっていることは知っているけども、もう少しこことここの部署をくっつけてくれたら私たちは便利になるのになって話は、現場でやっている結構あると思います。そんな話を図上でちょっと話し合ってみようというのが今日のテーマです。

＜ワークショップの方法（１時間程度）＞
〇準備物
・草津市の行政の中でも協働に関わりそうな部署のカード

・市民側のカード（ボランティア団体、学区社協、町内会、消防団等）
・協働に関わりそうな審議会のカード
〇ワークの方法
・３班に分かれて行う。
【Ａ班】乾委員長、森田委員、佐藤委員、青木副参事、栗田主事、阿部氏、西山課長
【Ｂ班】土山副委員長、四方委員、出呂町委員、布施委員、秋吉課長、坂居課長補佐
【Ｃ班】仲野氏、吉川課長補佐、藤原係長、中西職員、山元主査
・カードを使いながら知っている範囲それぞれの関係性を模造紙に書く
・使いたいカードがない場合は追加してもよい
・良い取組や良いつながりは黄色のポストイットに書いて付近に貼る
・要望とか疑問は緑色のポストイットに書いて付近に貼る
・参加者それぞれの視点を共有しながら関係性の現状を探る
・行政グループのみ、行政の視点でどう感じているかの課題を出す
・最後にどのような意見が出たのかグループごとに発表する

【発表（Ａ班）】

うちのグループは、全体を見ると市民活動があって、まち協と渋川学区のボランティアグループの話、あと社協の話もありました。

実はこれらが結構分かれてしまっているというのがまず浮かんできました。

話した順々にいくと、例えばやんちゃ寺で子ども食堂を始めていったときに、どこに相談していいかわからなくて、それは助成金とかそういう話ではなくて、運営の仕方とかをサポートしてもらいたかったんだけれども、そういう部署がない。

一方で、渋川学区の渋やる会の話ですが、子どもたちを中心にやっていて、これはいわゆる市民活動型、つまり元々の町内会の人ではなくて、こういうことやりたい人って手を挙げて入ってくる人たちですから、地域の中で市民活動的な動きが出てきていることはとても良いことなんですけども、ここで一番問題になったのは防災の話。まち協との繋がりはあったが、危機管理課との直接のやり取りはなかったようです。

また、避難所開設は草津市の場合は市の仕事になっていて、地域とのつながりになっていないため、防災と地域がうまく連携できていない。また、災害ボランティアセンターが社協の任務になっているわけだけれども、これが繋がっていない。

要するに防災の部局とのつながりも社協さんとのつながりも中々見えない。

大きく言うとその３つ（市民活動・まち協・社協）が頑張っているんだけどバラバラに動いていて、まち協の中に市民活動的な動きがある学区も出てきて、市民活動とまち協は段々つながってきているけども、社協とのつながりは中々見えてこないという話でした。
以上です。

【発表（Ｂ班）】

私たちのグループは、真ん中にあるのが協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会とそれに関わる市の部局、それに健康福祉、子どもという感じで整理していただいて、そして社会福祉協

議会、社会教育委員という感じになっています。
　それに関わり合う感じで、まち協、それに関わる色んなところがでてきました。
　まずキーワードとして出てきたのは「可視化」です。
　例えば子どもに関してもこれだけ関連していそうな部署がたくさんあると、どこが何してるかわからない、相談に行きにくいというのがあります。
　そういうときに、行政は社協に相談してみてくださいと言うことがある。
　社協と言えば、地域や市の中の色んな市民の活動とつながっていて、実際に地域でやっていく重要なところなわけです。
　地域から見たときに、社協と民生委員はそれぞれ地域全体と個々の問題に対応するという役割を担っています。しかしながら、そういった情報が必要な人に届いていない場合、社協に相談が集まり、一手に負担しきれないという問題が生じます。
　そうすると地域の中で課題に対する気づきとか初期対応など、地域で解決できるところは解決していって、深刻になってきたらさらにつながっていくというやり方もあると思いました。
　一方で地域について考えてみると、担い手の話など色々大変です。単に市民の関心が足りないということだけではなくて、コロナ禍の中で失われてしまったものの再起動の大変さというものを感じました。
　かつてやっていたことでも再起動することの大変さと、それらを踏まえてやることを見直しする、続けることや軽くすることを話し合う場が必要ではないか、これは問題の共有ということになるんだと思います。
　そして最後に、読書ボランティアを通じて地域と繋がる取っ掛かりが生まれつつあるという話を聞きました。でも、様々なところで各々がボランティアを募集しているため、全体像もそれぞれのつながりも見えにくいように感じています。
　市や社協やコミュニティ事業団で、活動や対象がそれぞれ重なっているところ、選択肢があることはいいことなんだけれども、重なっていて何かつながっていることが、よりいい効果があることもあって、一つにまとめる必要はないけれども、どこにどういうボランティアやどういう関わりができる人がいるのかを可視化することが大事なんじゃないかという話になりました。

【発表（Ｃ班：行政グループ）】

　我々のチームは５人のうち４人が市の職員ということで、市側から見た課題等を中心に話し合いました。
　市にはいろんな部署があって、市民や地域から見たらいろんな所属との関わりがありますが、市の中で所属間・組織間での連携や協力ができているか振り返ると、あまりできていない。
　その背景としては、縦割りというセクショナリズム、風通しが良くない、自分の業務外のことに対して、あまり関心がないというような職員の意識のところもあると思います。
　象徴的なことでは、総合計画の体系図の一番上のところに、将来ビジョン、まちの姿のゴールとして、健幸創造都市という言葉がありまして、健幸都市づくりっていうのを草津市の総合行政として謳っています。
　総合行政ということで、全ての部署が我が事として同じゴールに向かって頑張っていこうと掲げているにもかかわらず、なかなか連携がとりづらいところもあります。

これは、このような全庁的に関係することをみんなでやろうと言っても、中心となる部署の仕事という認識が強くあまり我が事にならないので、やらされ感が大きく、横の連携という意識につながっていかないのだと感じています。

また、福祉の部門でいうと、個別ケースに対応するときに、サービスごとの連携がいるので関係部署と連携しますが、ソーシャルワークといって地域に入って横のつながりを作る、関係を構築していくとなると苦手意識を持っている職員が非常に多いと感じています。

なので、地域の中で色んな関係者がそこに集って、地域にどういう課題があってみんなで何ができるかみたいなことを話し合う場を設けても、あまりうまくいかないことが多い。

それは、どのように関わっていくとうまく関係を作れるかっていうことを職員が共通認識できていないので、ちょっとこの辺が課題かなというふうに感じています。

そして市全体として何で協働がうまくいっていないかというと、手続き的にアンケートをとるとか、こういう審議会をして公募委員の方を入れて市民の意見を聞き取る、あるいはパブリックコメントをするという手続きをすることが協働だと理解しているので、協働ってやればやるほど手がかかるものだという認識をひっくり返さなきゃいけないと考えています。そういう意味では協働をすることのメリットみたいなところを、職員の方が認識をして、協働は自分たちが楽になるんだよ、より施策の質が高まるんだよといった、そういうプラス面をうまく見せてあげて認識したら、ちょっとは協働が進むのではないかと思っています。

ただ、やっぱり横のつながりという意味では、やっぱり色んな部署の人が話し合うことで持てるようになるかなと、ただ会議とかをやってもそれぞれのセクショナリズムで自分たちのことを主張して壁ができてしまいますが、そういったことを全て取っ払って、フラットな話し合いの場、一見すると無駄なように見えますが、そういう話し合いの場を重ねることによって、連携といったことにつながっていくのではないかなと思っています。

総じて言うと、協働がうまくいかないというのは、住民とか地域というよりは、市という組織、職員意識が原因でうまくいっていないということが多分にあるなというのが話し合った中で見えてきたと思います。